

# 宇和島の魅力を最大限に伝えるために～動画編集を通して～

1年1組 岡田 七海 1年3組 曾根 希美  
1年4組 赤松 風香 1年4組 大谷 蘭  
指導者 田中 善久・鶴井 恭子・井上 栄治

## 1 課題設定の理由

宇和島の魅力を最大限に伝える方法を考えていた時にふるさと CM 大賞を見つけた。それらを見て、私たちもその土地に行ってみたいと思った。そこで動画で宇和島の魅力を PR しようと考え、この課題を設定した。

## 2 実験・研究の方法

### (1) 実験方法

まず、自分たちが宇和島の中で魅力だと感じる場所を出し合い、PR する場所を3カ所決定した。その場所へ行き、色々なパターンで写真や動画を撮影した。その後、それらの素材を編集し、編集した動画をメインで使ったパターン A (図 1) と、写真と文字をメインで使ったパターン B (図 2) を作成した。その映像を 50 人に見比べてもらい、どちらの方が魅力が伝わったか判断してもらい、アンケートをとる。

<パターンAのコンセプト>

動画メインでつくり、動きを重視した。そのために自らが動画の中に登場し、台詞を入れて、ジャンプで他の場面へ移動する動画編集を行った。動画を入れることによってその場所の雰囲気や情景が伝わりやすいと考えた。また、人を登場させ、台詞をつけることで見ている人の興味を引き、最後まで飽きずに見てもらえるようにした。動きがある風景で、ありのままの宇和島の魅力や豊かな自然が伝えられると考えた。ジャンプで場面を切り替える撮影の仕方により流れを意識しつつ、楽しさを演出した。これにより、動きのある楽しい動画に仕上がった。

<パターンBのコンセプト>

全ての魅力を無駄なく伝えるために、画像と文字だけのシンプルな動画にした。また、その場所の画像と一緒にテロップを加えることで、1つ1つの場所が、印象強く残るようにした。音楽をつけることによって、動画全体に一体感が持てるようにし、CMらしさを演出してみた。自然の写真を多用することや、方言を用いたテロップを使用することで、宇和島らしさと落ち着いた雰囲気を出した。

### (2) 実験方法

- ア 動画の長さは 40 秒程度であること。
- イ PR する場所は 3 つであること。
- ウ 天候は晴れであること。
- エ 視聴者は 50 人であること。

## 3 結果と考察

アンケート結果はパターン A が 43 人、パターン B が 7 人となり、宇和島の魅力を伝えるためには、動画をメインで使ったパターン A の方が効果的であった。



図 1 : パターン A の一部



図 2 : パターン B の一部

## 5 まとめと今後の課題

パターン A が好印象だった理由としては、動きや声があることにより興味がわき、印象に残りやすいからであった。それに対して、パターン B は、シンプルだったが、人を引き付ける魅力がなかったことが結果から分かった。今後の課題は、パターン A とパターン B を組み合わせ、シンプルかつ動きもあり、見やすく楽しい動画にすることだ。今回の動画編集を通して、宇和島の魅力を伝えられる手段を知ることができた。

## 参考文献

- ・ふるさと CM 大賞えひめ <http://furusatocm.eat.jp/>